

極力努力されんことを云々」と言っているかのようである。そこにみられる彼等の管理者的発想、我々学生の個別立命館資本のスムーズな回転に協力する被管理者的存在といった思考法が彼等の頭の中にあることは明白である。そしてこの事実が、六〇年以降の教育機構の帝国主義的再編を内から補完しているのである。

しかもその骨子は、寮連合の提起した本質的な課題（直接的には学寮政策であるが、立命館の教育理念・体制の重要な一環であるが故に立命館体制にとっても本質的な）を一切隠蔽したものにすぎない。

我々はこの欺瞞に満ち満ちた程度の低い「六学部声明」の白紙撤回を勝ち取り、寮連合の要求項目を貫徹するために、以後、理事会団交要求を強力に推し進めていった。中川会館のバリケードでつづけられる寮団交は、学内の緊迫を一日一日とたかめていった。

一月一八日、全共闘と寮連合は、東大闘争支援・団交貫徹決起集会を中川会館バリケード前で開催する。一方、大学理事会・民青学友会は、全学封鎖解除集会をわだつみ像前で開いた後、午後一時三〇分、五者共闘会議とともに中川会館バリケードの実力解除行動に出た。しかしながら彼等は、一般学生・体育会全共闘の隊列を破ることが出来ず、次には研心館で末川博経以下の出席の下、再度全学封鎖解除集会を開くに至るのである。なお、一時から一時二〇分まで、中川会館バルコニーから乾教学部長他学寮委員が全学生に「外に見えるバリケードよりもまずお互いの心の中の見えないバリケードを解くことが必要である」と呼びかけ、キャンパスを埋めつめた学生に強い感動を与えたが、大学理事会・五者共闘のスクラムの内部にも深い動揺を与え、一八日の全学集会は、なんらの成果をあげる事ができなかったまま終わる。

五者共闘に加わった部分は、理事会から、泊まりこみに必要な施設や寝具を与えられ、生協は、たきだしで、泊まりこみを支援した。緊張をますキャンパスのふんいきの中で衝突を回避することを真剣に願う学友は、ま冬の戸外で、たきびをしながらか、待機するが、自主的に自発的に事態にあたらうとする部分に依拠せず、党派グループ・五者共闘に、解決の力を見出そうとした理事会は、まさに、食いのものうらみによって、転覆されることになるわけだ。

-18-

て全学協あるいは全学集会等、学友会及び一般学生も含む交渉決定でなければならぬ。

このような内容が、代々木・民青と大学本部（理事会崩壊後の執行機関）との間で決定されていたことを示す重大な文書である。

【資料】⑭ 末川博経の発言内容

このままでは学園は崩壊する。学生諸君は皆兄弟、一致団結しよう。寮問題は大学側が最大限の譲歩をした。これ以上は学園全体の問題として処理したので、封鎖を解き教官らの身柄を釈放してほしい。民主主義の立命大は東大紛争などとは根本的に問題が違うが、そのたてまえが空洞化しているのも事実。この機会に学園の統一について徹底的に話し合いたい。

（一月一九日付京都新聞）

さらに、早朝より開始されていた体育会による仲介活動も理事会（大学本部）の一方的な拒否によって徒勞に終わった。そして大学本部は、それを「二〇日の行動に関する最終通告」として発表した。

【資料】⑮

二〇日の行動に関する最終通告

二〇日正午までに封鎖を解除し、中に閉じ込められている教職員を解放すること、封鎖を解かない場合は集会参加者が素手でもって解除に向かう。但し投石の危険があるため盾を使用する。

※この最終通告は一八日午後九時すぎに体育会の仲介により一話し合いの最中から双方とも最終的見解は出さない」という確約の下に行なわれた理事会と寮連合との話し合いの際、理事会代表と名の山手治之法学部教授が提出したものである。この最終通告は二〇日夜大西法学部教授を中心とする教員団が、キャンパスの人ごみをかきわけてもってきたが、彼らは何の説明もせず逃げるようにしてひきかえした。

【資料】⑯

（ピラ）全体育会員・学友に訴える

体育会本部

今、我が学園の中では中川会館をバリケード封鎖するという非常事態が起っている。この事態を避け、スムーズな話し合いが再会されるように、体育会本部は次の様なことについて努力してきた。一八日午後五時半、寮連合及び大学側に次のことを申し入れた。

①学内、学園内に起っている非常事態を避け正常な話し合いが進行することを要望する。

②バリケード封鎖に反対する。そして寮連合は、正常な話し合いが出来るようにすることを要望する。

（資料）一月一八日全学集会決定事項（秘）

①大学としてはこの事態の平和的解決のために、あくまで警察力を導入せず全大学人の手で自主的かつ平和的に解決していく道を、大学と五者共闘会議との間で確認しあって検討する。

②中川会館の封鎖解除・大学側の身柄釈放を遅くとも一月二〇日には行なうよう寮連合に対して通告する。

③この要求をする代表団は各学部代表二名・合計一二名とする。学友会にはヘルメット・棍棒を持たない。

④通告の間「中川会館の封鎖を解除せよ」「教職員的身柄を釈放せよ」「正常な話し合いにもどせ」の三つのシュプレヒコールを行なう。

⑤二〇日以降の問題の対処については大学・五者共闘会議それぞれが検討の上、以後協議を続ける。（学友会は実力行動もあり得るとしている。）

⑥封鎖を解けば大学側は正常な話し合いを保証する用意がある。正常な話し合いとは

⑦封鎖解除、角材・ヘルメット等の中川会館からの撤去が前提となる。

⑧大衆団交はいけない。

⑨但し、一定のレベル以上の問題は全学生にかかわる問題とし